

池田左松「泰納俳句」天明5年6月



酒田で生まれた文人

酒田を題材にした文学

第149回 企画展

文学と酒田

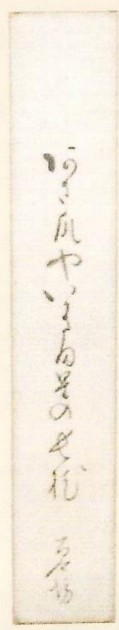
開催期間
平成19年10月4日(木)~12月2日(日)

開館時間
午前9時~午後4時30分

休館日
期間中無休

入館料
一般100円、児童・生徒・学生50円
(土・日曜日は、小・中学生無料)

酒田市立資料館
酒田市一番町8番16号 TEL 0234-24-6544



短冊 武長百合坊



伊東不玉中宅跡(一丁目)

開催にあたって

酒田は最上川の河口湊として拓け、その背後に広範な最上川流域を控え、特に、江戸時代前期の河村瑞賢による西回り航路の整備によって、最上川舟運と日本海海運が交わる拠点的な湊として一層発展するとともに、酒田の名が全国に広まりました。

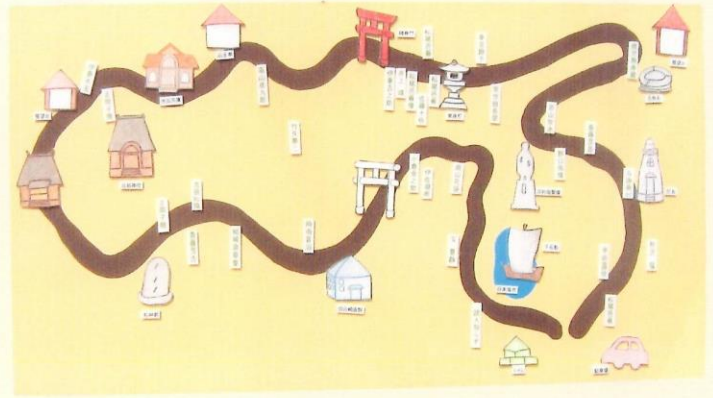
酒田の経済活動の活発化に伴い、全国各地との物心両面の交流が深まり、幾多の文人墨客が酒田を訪れ作品を残しました。例えば井原西鶴は酒田を往来した人々からの情報によって『日本永代蔵』に燈屋の繁盛振りを描写しています。一方、西鶴と同時期に活躍していた芭蕉は、奥の細道の途次、酒田に逗留し蕉風の俳諧を根付かせました。また、このような環境の中で、文学者も輩出したほか、酒田を題材にした文学作品も生み出されました。

本展では、酒田に來遊した多くの文人、酒田が生んだ文学者や本業を持ちながら創作活動に取り組んだ人々の活動と文学作品を紹介し、それらを育んだ背景を考えると同時に、これらを受け入れた感性豊かな人びとの心情に迫ります。

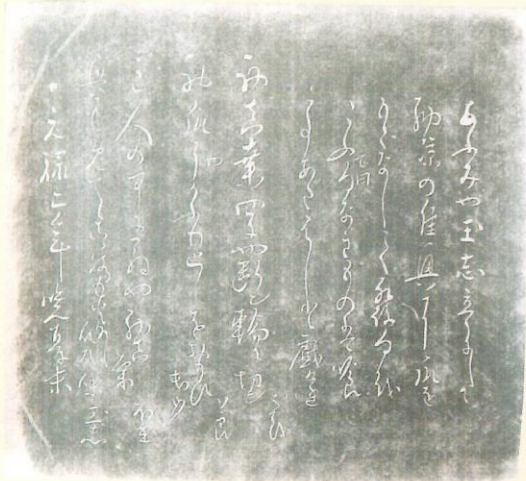
本企画展の開催にあたり、貴重な資料を快くご提供くださいました関係機関並びにご協力賜りました多くの方々へ心から御礼申し上げます。

【資料提供 市条八幡宮、糸谷 聰氏、酒田市阿部記念館、酒田市立光丘文庫、及び協力者】 酒田市立中央図書館、佐藤春吉氏、長南寿一氏

酒田を訪れた文人



日和山文学の散歩道



あふみや懐紙(拓本)
松尾芭蕉



「月の窓」
常世田長翠



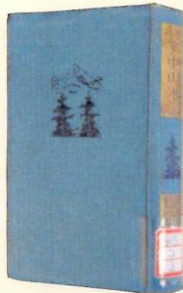
「短冊」
常世田長翠



「東海道」 「寄鏡恋」
服部菅雄(千世園)



「山行水行」
田山花袋



「掌中山水」
幸田露伴



鹿児島寿蔵歌碑「鳥海山」
(飛鳥)



最上川河原にて(昭和22年) 斉藤茂吉(中央)



料亭宇八にて(大正10年)
竹久夢二(中央)



斎藤茂吉歌碑「おほきなる」(日和山公園)